意見広告

九州電力　玄海原発3号機

普通の原発の燃料はウランだけですが、プルサーマルではプルトニウムとウランを混ぜてつくったMOX燃料を使います。
原発の設計時には考えていなかったため、様々な対策をしなければ運転をすることができません。

プルサーマル これでも同意できますか？

疑問は深まるばかりです

日本は原子力発電所で発生する使用済み核燃料は「再処理してプルトニウムとウランと高レベル放射性廃棄物に分離する」という方針を選択。今まではイギリスとフランスに再処理の大部分を委託してきました。

燃料として使った以上のプルトニウムを生み出すという「夢の高速増殖炉」のためのプルトニウムだったのですが1995年に開発中の「もんじゅ」が大事故。それでも再処理を中止しなかったため現在のプルトニウムの在庫量は約43トンにも。

この「国策の失敗」を認めぬまま溜まったプルトニウムの在庫処理として、普通の原発で安全の余裕を削って燃やすプルサーマルが選択されたのです。しかし、プルトニウムを普通の原発で燃やすことに資源的な優位性はなく、極めて高価な「リサイクル」となってしまいます。

プルサーマルは1999年、関西電力と東京電力から順次各地の原発（16～18基）で実施する計画でしたが、未だに実施できていません。

先に始めるはずの電力会社がすべて頓挫、とうとう九州電力が先頭に押し出される形になりました。そして43トンもの在庫がありながら、2006年2月には青森県六ヶ所村でほぼ完成した巨大な再処理工場が試運転とはいえ、事実上の本格稼働を始める計画です。そこで取り出されたプルトニウムはすべてプルサーマルに使用する予定なのです（年間8トンのプルトニウムを取りだせる設計）。12兆円のお金を使って9000億円分の新燃料（MOX燃料）を作るために……。

今、私たちの良識を示す必要が出て来ました。
「プルサーマル反対」の流れに加わりましょう、私たちも！

チェルノブイリ原発事故から来年で20年
——私たちは　何を学んだのでしょうか

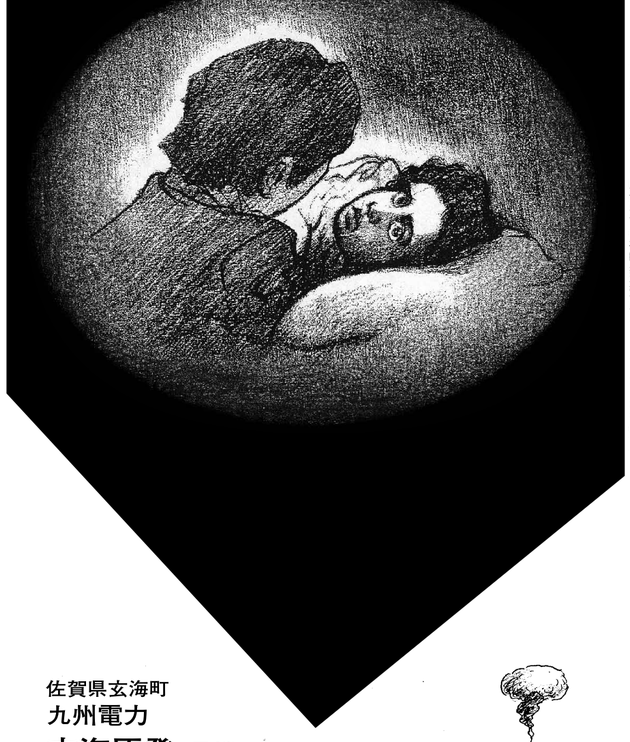
プルトニウムは超猛毒物質。1gで年摂取限度値の1.4億人分!

大事故が起きてからでは…
「十分に安全に設計されている」はずの原発ですが、ちょっとしたミス、故障が引き金となり大事故につながります。

一九七九年米国スリーマイル島原発で起きた事故は、冷却水がなくなり燃料の半分近くが溶融点を超えたため溶けて崩れ落ち、あわや「原子炉の底を貫通」という大事故でした。玄海原発と同じ型です。

一九八六年のチェルノブイリ原発では原子炉出力の制御に失敗したため核暴走事故を起こし、吹き上げられた放射能は八千キロも離れた日本にもやって来ました。

誰しも事故は起きて欲しくないと思っていますが、安全の余裕を削って事故を招いてから後悔しても遅すぎるのです。



イラストはチェルノブイリ原発事故の被曝報道写真からイメージしたものです。

各地でプルサーマルは拒否・凍結され、玄海が先頭に

福井　**凍結状態**　1999年に関西電力がプルサーマル計画の延期を発表、それ以降、凍結状態。

福島　**白紙撤回**　2002年に福島県がプルサーマル計画受け入れの事前了解を白紙撤回。

新潟　**白紙撤回**　2001年に刈羽村の住民投票で反対が過半数、2002年に新潟県がプルサーマル計画受け入れの事前了解を白紙撤回。

住民投票で 私たちはプルサーマルを断りました——新潟県から

私は新潟県の、原発城下町と言われている刈羽村に住んでいます。一キロほどの所に東京電力の原発が7基あり玄海の約2倍の規模です。

原発は安全に運転して欲しいと、私は願っています。もう、これ以上不安な気持ちにさせないで欲しいと、いつもいつも願っています。

プルサーマルが「国策」だからといって、より危険になることを何で受け入れなければいけないのでしょうか。

「尻ぬぐいの国策」などごめんです。ですから私は二〇〇一年、苦労の末に実現できた住民投票で、「プルサーマル反対」に丸をつけました。

結果は反対が過半数！　ホッとしました。

ついに九州電力に順番が回って来たそうですが「プルサーマルは断るのが普通」だと思います。

良い知らせを、遠い新潟でも待っていることを、どうか忘れないで下さいね。

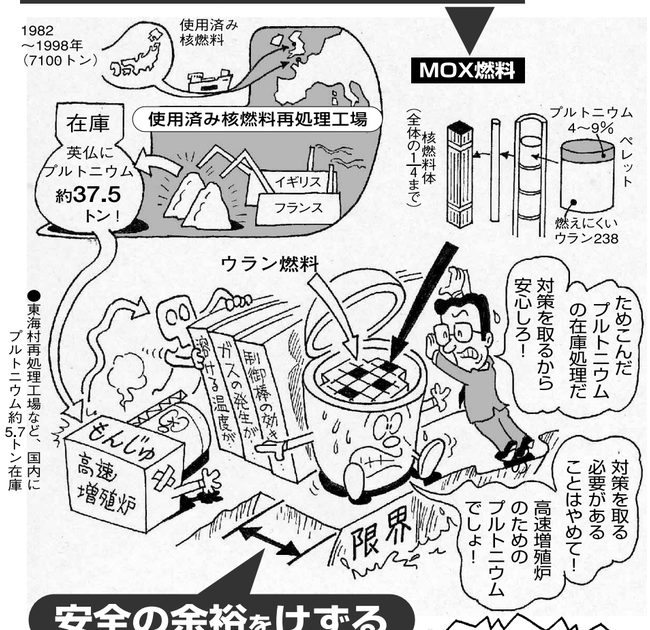
新潟県刈羽村　近藤　ゆき子

これでもリサイクル？資源の節約？

■再利用は1%のプルトニウムだけ
■価格は少なくともウラン燃料の約4～13倍

イギリス、フランスから輸送されて来るMOX燃料には、回収したウランは1グラムも使用されません。「95%再利用可能です」と宣伝しても、実際に使用するのは1%のプルトニウムだけ（回収ウランは約25年間でウラン燃料にわずか約66トンを実験的に使用した程度）。税関での申告で、英仏から輸送されて来たMOX燃料の価格はウラン燃料の4～8倍であることが判明。約13倍というのは六ヶ所村再処理工場を動かした場合ですが稼働率100%が前提。実際は……？

核兵器の材料でもある　玄海原発3号　最大時装荷量
プルトニウム 約2トン 使用



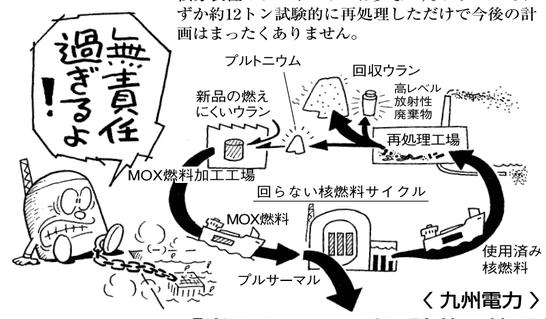
安全の余裕をけずる

九州電力の主張では
●MOX燃料を使用することで制御棒の効きはたしかに悪くなりますが、その程度はわずかであり、原子炉を停止させる能力は、余裕を持って十分確保できます。
●溶融点はウラン燃料よりも70℃低い約2,720℃になります。

プルサーマルは1回だけ？ 使用済みMOX燃料 出口なし？

MOX燃料を再処理する国はゼロ

理由は現在の再処理技術では分離がうまく行かず使い物にならないものしかできないから。
（ウランの使用済み核燃料と比べて死の灰や長寿命・発熱量が高い超ウラン元素などが多いため。核分裂性のプルトニウムは少ない）。フランスでわずか約12トン試験的に再処理しただけで今後の計画はまったくありません。

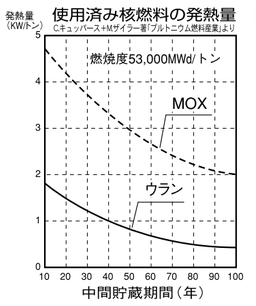


〈九州電力〉

「当面の間、原発で貯蔵、管理」

当面って500年？永久？

熱くて、冷えるのも遅過ぎる！

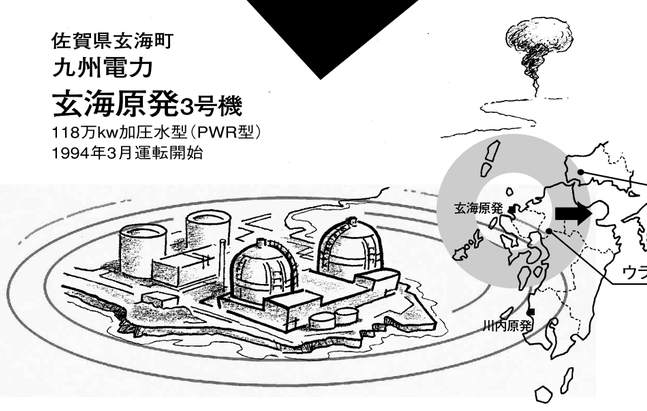


■使用済みMOX燃料を100年間保管しても、使用済みウラン燃料の10年後の発熱量を上回っています。

発熱量がウランの約2倍も高く、その上なかなか下がらなくて500年後にやっとウラン燃料の高レベル放射性廃棄物ガラス固化体の50年後と同じ温度まで冷えるとの報告も出ました。

被害が広がる？

プルトニウムを大量に使用するため、大事故が起きた場合、放射能による被害はウラン燃料と比べて、距離で2倍、広さで4倍にも達するとの指摘もあり、被曝の影響を受ける人は大幅に増えることが予想されます。



国まかせで無責任！

六ヶ所村再処理工場ではプルサーマルの使用済みMOX燃料の再処理はできません。国の原子力委員会の「原子力政策大綱」では、「プルサーマルの使用済MOX燃料の処理の方策については2010年頃から検討を始める」となっていますが再処理するとは書いていません。電気事業連合会会長は策定会議（第1回/2004.6.21）で六ヶ所村再処理工場に続く第2再処理工場などについて「これから先、大きな投資を行う将来の選択肢は、これは国として、長期的に柔軟な観点から総合的に検討していただくことが必要であるというふうに考えております」とMOX燃料再処理に消極的な発言をしています。プルサーマルの使用済みMOX燃料の再処理は技術的に困難で経済的にも割が合わず非現実的。行き場がなく、玄海原発が最終処分場になってもまったくおかしくありません。

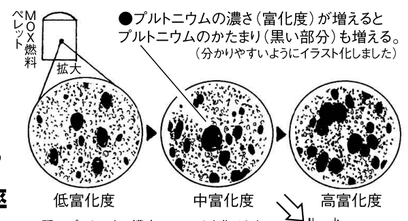
■事故の仮定と計算条件：（図の円で示したのはその方向に風が吹いた場合に1シーベルト＝一般人の年間被曝限度の1000倍を被曝する範囲）事故の仮定は、基本的に WASH-1400（ラスムッセン）報告の手法に従い、118万キロワットの加圧水型原子炉（プルトニウム総装荷量1.72トン）を想定。炉心溶融事故が原因で放出される核分裂生成物の放出率の仮定は 希ガス90%、ヨウ素70%、セシウム50%、テルル30%、ストロンチウム5%、ランタノイド0.4%、プルトニウムは炉心内蔵量の4%— 69kgが外部に放出されたと仮定。放出高度200メートル。大気安定度D、風速4メートル、放射能雲の広がり角15度、放出時間30分。

世界に類の無い条件 ❶+❷+❸の玄海プルサーマル

❶ 核分裂性プルトニウムの濃さ（核分裂性プルトニウム富化度）

フランス ドイツの **約1.5～2倍**

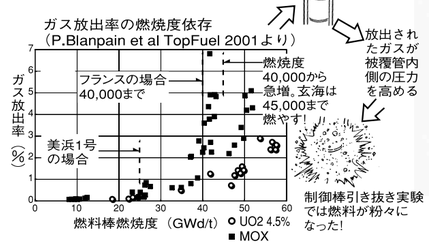
日本の核分裂性プルトニウム富化度平均は **6.1%**



❷ ペレットからの ガス放出率 急増域まで燃やす

プルトニウムの濃度が高くなると核分裂が激しく発熱も高いプルトニウムのかたまり（スポット）が多くなり、制御棒の効きがさらに低下、ガスの放出率も高くなります。

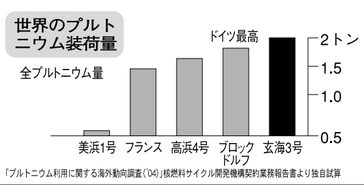
フランスはガスの急増前に燃料を取り出す



❸ プルトニウム装荷量は 世界最大レベル 約2トン

全プルトニウム量

ドイツは140万kw級の原発でもプルサーマルをしていますが、プルトニウム平均富化度は平均4%なので量は118万kwの玄海の方が多い。フランスは90万kw級のみ。



佐賀県知事さんへ

九州電力から求められているプルサーマル受け入れに
同意しないでください
というあなたの声を伝えてください

ハガキ、手紙は〒840-8570　佐賀県佐賀市城内1-1-59へ
また佐賀県ではホームページで知事への提案を受付けています。
http://www.saga-chiji.jp/teian/top.html

【意見広告主催】 佐賀県平和運動センター（TEL 0952-32-2211）/からつ環境ネットワーク/グリーンコープ生協さが
〈賛同団体〉脱原発ネットワーク・九州／生活協同組合連合会グリーンコープ連合／グリーンコープやまぐち生協／グリーンコープ生協ふくおか／グリーンコープ生協(長崎)／グリーンコープ生協おおいた／グリーンコープ生協みやざき／グリーンコープ生協くまもと／グリーンコープかごしま生協

●問い合わせ、詳しい資料を御希望の方は下記までご連絡下さい。
脱原発ネットワーク・九州事務局　〒803-0277 北九州市小倉南区徳吉東1-13-24
FAX 093-452-0611　メールアドレスmfukae@jcom.home.ne.jp

※この意見広告は、市民団体や市民のカンパで掲載しています。　イラスト:高木 章次